

「JTの森」活動に意欲

清川常務執行役員が来社

8日に中津川市で行われる森林保全活動に合わせ、日本たばこ産業(JT)の清川栄一常務執行役員が7日、岐阜新聞本社を訪れ、矢島薫社長と面談。同社の地域貢献活動や事業展開について語った。

2008年に中津川市、県と協定を結び、同市蛭川の「JTの森 中津川」で広葉樹を植栽している。8日は下草刈りや遊歩道の整備を行う予定で、「事業活動を行う上で自然との共生は重要。里山が失われない

よう今後も活動を継続していきたい」と意気込んだ。事業展開については、今月から全国で販売する低温加熱式の新製品「プルーム・テック・プラス」をはじめとする加熱式たばこの販

売に力を入れ、「製品の選択肢を増やして顧客のニーズをつかみ、紙巻きよりもおいが少ない加熱式の存在も広く浸透させたい」と述べた。

受動喫煙対策を強化する改正健康増進法が20年に全面施行されるが「望まない受動喫煙をなくすことで喫煙者と非喫煙者の共存が図られる」と話し、今後も店

舗や自治体に分煙対策の助言をしていくとした。



「里山が失われないよう今後も森林保全活動を継続したい」と語る清川栄一常務執行役員＝岐阜新聞本社